

(公社)日本地すべり学会

東北支部だより

vol.

36

東北支部事務局

〒980-0012

仙台市青葉区錦町1丁目7番25号

株式会社復建技術コンサルタント内

担当:大澤、甲斐 ☎022-262-1234

ご挨拶

東北支部長 森口 周二

(東北大学 災害科学国際研究所 教授)



支部会員の皆様におかれましては、日頃より多大なるご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。本年度の「支部だより」の発刊にあたり、支部長としてご挨拶申し上げます。

2025年度は、5月に総会・講演会(第1回)・意見交換会、9月に現地検討会、10月に若手講習会、11月に講演会(第2回)を開催し、さらに3月には講演会(第3回)の実施を予定しております。例年同様、非常に活発な活動が展開されており、大変喜ばしく感じております。運営委員会・幹事会の皆様のご尽力と、支部会員の皆様の高い向上心の賜物と存じます。また、コロナ禍において急速に整備されたオンライン環境はその後積極的に活用されており、会場に足を運べない場合でもオンラインで参加できる体制が確立されました。その結果、他支部からの参加者も増加し、支部活動の活性化に寄与しております。活動が制約されていた時期にも努力を重ね、継続を模索した取り組みが、今になって形を変えながら実を結んでいるものと感じております。

9月16日～17日に奈良県で開催された第64回(2025年度)研究発表会・現地見学会では、昨年度の宮城大会と同様、多くの発表と参加者が集まり、大変盛会となりました。運営を担当された関西支部の皆様には、改めて深く感謝申し上げます。また、奈良大会における表彰式では、宮城大会の運営のた

めに設置された幹事会に「学会活動貢献賞」が授与されました。宮城大会を成功に導いた幹事会の皆様のご尽力が高く評価された結果です。詳細につきましては、受賞報告の記事をご覧ください幸いです。

さて、2025年も例年同様、多くの自然災害が発生しております。3月のミャンマー大地震による甚大な被害に加え、台風や豪雨も各地で多発しました。国内においても、特に7～9月の出水期には豪雨災害が相次ぎ、秋田県・青森県では観測史上1位となる降水量が記録されるとともに、一部地域では警戒レベル5の緊急安全確保が発令され、河川氾濫や土砂災害による深刻な被害が生じました。東北支部会員の中には、これらの災害対応に従事された方も多くいらっしゃると思います。かつては、他地域と比較して豪雨災害リスクが低いと認識されていた東北地方ですが、近年はほぼ毎年のように災害が発生しており、その状況は大きく変化しています。このような現状の中で、日本地すべり学会東北支部が果たすべき役割は、ますます重要性を増しております。今後も、地すべりに関する知見と技術の共有、さらに会員同士のネットワーク強化を図りつつ、地域社会に貢献できる活動を進めてまいりたいと存じます。引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。

2026年度主な行事予定

■支部開催事業

*東北支部・総会・講演会

(2026年5月中旬予定、仙台市)

*講演会及び研修会

(開催は随時ホームページで案内)

■本部事業

※(公社)日本地すべり学会社員総会・シンポジウム

(2026年6月、東京都)

※2026年度(公社)日本地すべり学会

第65回研究発表会及び現地見学会

(9月15日～18日、メッセ群馬)

※最近の地すべり・土石流災害調査報告会、各種研修会

(開催案内は随時ホームページに掲載)

設立40周年記念寄稿

日本地すべり学会東北支部の今後に期待すること

(公社)日本地すべり学会会長 浅野 志穂
(国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所



日本地すべり学会東北支部が設立40周年という節目を迎えられることに、心よりお祝いを申し上げます。1985年の設立以降、東北支部では地すべりの研究の深化とともに地すべりに関わる研究者や実務者の連携を進めて、地域の土砂災害防止・軽減に向けて長年にわたり大きく貢献してきた。支部の歩みは東北地方における地すべり研究の歴史そのものであり、先達の大いなる努力と情熱に深く敬意を表するものである。この節目にあたり、今後に向けて東北支部に寄せる期待について述べてみたい。

東北地方は全体を概観すると、南北に縦断する急峻な山脈や山地、高地が列になって連なっており、それを構成する地質は断層などを含み複雑な分布構造をしており、特に脊梁山脈から日本海側を中心に広く分布する第三系の砂岩泥岩やグリーンタフ分布域は再活動型地すべりも多い。地形的に明らかな規模の地すべりが多く分布しており、東北地方におけるこれまでの地すべり学会での研究発表例を見ると伝統的に地形や地質に注目したものが多く。

誘因としては多雪地域に当たる東北地方では積雪や融雪による地すべりが特徴的である。積雪層は一時的に降水を貯留し、融雪時期に大量の水を連続的に地表に供給するという降雨とは異なる浸透水の供給源となり、比較的深層の地下水と関係性が深い地すべりが特徴的である。一方で、近年は気候変動の影響もあり豪雨による地すべり災害も顕著となりつつある。こうした降雪や降雨に起因する地下水変動と地すべりの関係についての取り組みが今後も重要である。

東北地方の地すべりを語るうえで地震との関係は忘れることができない。2011年東北地方太平洋沖地震では広域で落石や盛土等の人工地盤のすべりも発生したが、巨大な本震の影響の可能性も考えられる内陸活断層型の地震が本震に引き続いて各地で発生しており、実際に福島県で発生した地震による地すべりの被害もでている。地震に起因する地すべりに引き続き注目することが必要である。2008年の岩手・宮城内陸地震では、1つの地すべりとしては日本最大級といわれる荒砥沢地すべりを初めとして、栗原市や一関市を中心に多数の地すべりが発生し、地震を誘因とした大規模地すべりの発生メカニズムの研究が大いに進められた。また東北地方では近年大規模な火山噴火による顕著な被害は起きていないが、要観測対象となっている活火山が東北地方では多くあり、今後とも火山活動と地すべりの関係について注目する必要がある。

これらの誘因や素因と地すべりの関係を明らかにし

て地すべりのメカニズムを理解するには、観測・解析技術のさらなる高度化が求められる。近年、リモートセンシング技術や現地計測のクラウド化によるリアルタイム共有化、AIなどを活用した地形判読など、情報技術の利用は大いに前進している。これらの活用をさらに進めることはもちろんのこと、まだ十分とは言えない地下情報の収集や変位・移動情報の収集など、未開拓分野の観測技術の進化が今後重要となっていく。これらを総合的に取り扱って体系化することが地すべり災害の軽減につながるものであり、より現地に近い支部が重要な役割を果たすことができる。

同時に、人材育成の課題は避けて通れない。東北支部に限らず学会全体、ひいては防災分野全体で技術者や専門家の高齢化が進み、人員が減少するとともに若手がじっくりと現場経験を積む機会が減りつつあるように思われる。熟練の技術をすべてマニュアル化することは不可能であり、失敗も含めて多くの現場経験に根ざした判断は、新たな課題に直面した際の解決に重要な要素であり、経験知の継承は今後大きな課題である。東北支部ではこれに対して勉強会や現地討論などさまざまな活動に取り組んでいるところではあるが、学会の果たすべき役割として人材育成への取り組みをさらに支援していく必要がある。

さらに実質的な地すべりの防災・減災を考えるうえで、産学官の連携、地域や他分野との連携は欠かせない。行政等による地すべり対策が抱える課題を学界が科学的知見から検討し、企業が技術として実装化するという連携のサイクルは地すべりへの対策の質の向上への基盤である。これまで支部が実施した現地見学や研究発表なども地域や他分野も巻き込んで多様な立場の技術者が相互に学びあえる機会を設けることで、地域の安全・安心につながる。

支部設立40周年は、過去の歩みを振り返るとともに、未来に向けた新たな一歩を踏み出すための節目である。気候変動や地域社会の変化など、東北支部を取り巻く課題は今後さらに複雑化することが予想される。その中であって、東北支部は地域に根ざした知の集積拠点として、研究の深化と実務への還元を継続し、次世代を担う人材を育て、産学官の協働を促進する使命を担っている。

本支部が40年の歴史を礎に、さらなる発展を遂げ、東北地域の安全・安心に一層貢献されることを心より期待する。

2025年度学会賞受賞に寄せて

(公社)日本地すべり学会東北支部幹事長 瀬野 孝浩



2023年3月の第63回研究発表会及び現地見学会(宮城大会)の開催打診を受け、早々に開催準備会、幹事会及び実行委員会を組織し、約1年半にわたり準備に奔走しました。途中、いくつかの課題と問題を解決しながら、宮城大会は2024年9月20日に盛会のうちに無事に終了することができました。大会運営に当たり多大なご協力をいただいた東北支部幹事、運営委員の皆様、また、当日にご協力いただいた協賛企業各社に、この場を借りて改めて御礼を申し上げます。

さて、奈良大会の開催まで2か月余りとなった今年の7月半ばに開催された本部理事会において、「宮城大会幹事会に対して学会活動貢献賞を授与する」ことが決定されたと、森口支部長より連絡がありました。授賞理由は「受付システムなどに新たな技術を大会運営に導入したこと、運営に当たり新たな課題へ円滑な対応を実施し、優れた計画立案とプロジェクト管理・運営がなされた」とのことでした。「なぜ、運営側の幹事会が表彰？」と半ば疑いながら本部に確認したところ、「間違いはありません。堂々と受賞してください。」とのことで、すぐに支部内で情報の共有を図りました。

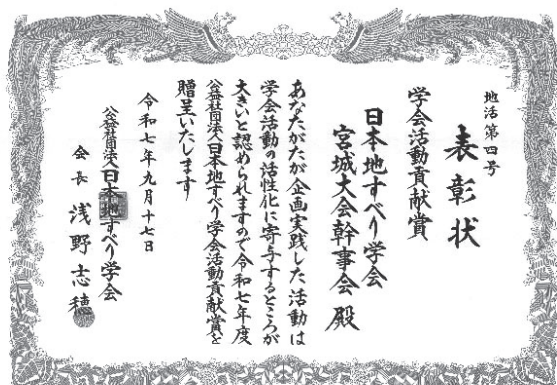
宮城大会では、開催決定後の5月に準備会を組織し、8月には幹事会へ移行したのちに実行委員会を立ち上げ、早い段階から準備を進めました。新たな取り組みとして、当日の受付エリアの混雑緩和と出欠状況をリアルタイムに管理することを目的に、初めてQRコードを用いた受付システムを採用しました。これは従来の紙資料による本人と参加プラン

確認をPC上で行うもので、受付時間の大幅な短縮が図られ、参加者アンケートでも高い評価をいただきました。また、学会本部と連携してインボイス制度へ対応した参加費の導入を提案し、特に混乱もなく運営できたことも評価されたようです。

奈良大会は9月16日～19日の日程で、奈良公園に隣接した「奈良春日野国際フォーラム 麓～I・RA・KA～」において、盛大に開催されました。口頭発表129編、ポスター発表55編、新技術セッション29団体と昨年に匹敵する発表がなされ、各会場とも活発な討論と意見交換がなされていました。また、昨年の特別講演テーマであった「防災の未災学」に関する発表も14編があり、関西支部の特徴がよく出たプログラム構成となっていました。宮城大会で導入したQRコードでの受付方式にも一層の工夫や改善が図られ、ピーク時でも全く混雑はなく、スムーズな受付が進められていました。

表彰式では幹事会を代表して小生が賞状を頂いてまいりましたが、会場は能舞台が常設された能楽ホール(500人収容)とこれまでにないシチュエーションでちょっと緊張しました。笹原表彰委員長から授賞の紹介を受けた後に、御礼のスピーチをしましたが、思いのほかうまく話することができてほっと胸をなでおろしました。

今回の受賞は大会運営に係わった東北支部幹事、運営委員の皆様、また支部協賛企業の皆様のご協力と努力の賜物と存じます。本当にありがとうございました。



2025年度 東北支部総会議事内容

開催場所：TKP仙台青葉通カンファレンスセンター

開催日時：2025年5月23日(金) 14:00～14:45

総会進行・議長：森口支部長

壇 上：森口支部長 高見副支部長 瀬野幹事長

参加者：リモート出席+会場出席62名(正会員) 委任状29名 合計91名

*東北支部運営規則第14条により、定足数85名(会員数169名の1/2以上)を満たし総会は成立した。

第1号議案 2024年度事業報告

■総会：2024年5月17日

(トークネットホール仙台(仙台市民会館)B1展示室)

○総 会：会場出席45名+リモート出席8名、

委任状45名 計98名

○意見交換会：TKPガーデンシティ仙台勾当台

■役員会、運営委員会、幹事会、委員会

○役員会・幹事会

*2024年度役員会及び幹事会は宮城大会開催に係る幹事会と兼ねて実施した。

・第1回(2024年5月17日33名)：宮城大会の事業計画に関する協議(実施計画書・予算・新技術セッション・意見交換会・広報・各種応募状況など)、2024年度事業計画案の策定

・第2回(2024年7月16日26名)：宮城大会の実施要領に関する協議、研修会の実施計画など事業の実施要領の確認ほか

・第3回(2024年8月30日30名)：宮城大会直前打合せ→第2回宮城大会実行委員会、研修会などの実施要領の確認ほか

・第4回幹事会(2024年9月3日7名)：仙台国際センター最終打合せ

・第5回幹事会(2024年12月5日14名)：第3回宮城大会実行委員会→宮城大会開催報告及び決算見込みの報告ほか

・第6回幹事会(2025年3月19日23名)：*兼ねて、第1回運営委員会

○運営委員会

・第1回運営委員会(2025年3月19日23名)

2024年度研究発表会及び現地見学会開催の開催報告

2024年度事業実行状況の報告、2025年度事業計画に関する方針説明について、2025年度総会議案書の審議

■講演会

①第1回講演会

* (一社)建設コンサルタンツ協会CPD認定 2.00単位

・開催日時 2024年5月17日 15:00～17:00

・開催場所 トークネットホール仙台(仙台市民会館) B1展示室(ハイブリッド開催)

・参加人数 正会員および支部協賛企業ほか177名

・演題及び講師

「リアルタイム地震動予測と構造ヘルスマニタリング」
山形大学工学部 建築・デザイン学科教授 三辻 和弥 氏

「すべり面抵抗力を粘性モデルで評価する

—複雑な地すべり挙動を理解するための試み—

日本大学工学部 土木工学科専任講師 梅村 順 氏

②第2回講演会

* (一社)建設コンサルタンツ協会CPD認定 2.75単位

・開催日時 2024年8月30日 13:30～16:30

・開催場所 東北支部会議室 (ハイブリッド開催)

・参加人数 正会員および支部協賛企業ほか 計112名

・演題及び講師

「東北支部地下水に関するワーキング(勉強会)開設に際して」事業企画委員 渡辺 修 氏

「1本のボアホールから 一既存観測孔でできること—」

元山形大学 奥山 武彦 氏

「地すべりに関わる地下水、未解決で興味深い話題」

新潟大学災害・復興科学研究所 渡部 直喜 氏

「新潟県伏野地すべりにおける間隙水圧計設置の取り組みと観測事例」

国土防災技術株式会社 土佐 信一 氏

③第3回講演会

* (一社)建設コンサルタンツ協会CPD認定 2.66単位

・共 催 東北大学災害科学国際研究所・防災科学技術研究所

・後 援 (公社)地盤工学会東北支部

・開催日時 2025年3月14日 14:00～17:00

・開催場所 東北大学災害科学国際研究所 2F S203(演習室A) (ハイブリッド開催)

・参加人数 日本地すべり学会正会員及び支部協賛企業、地盤工学会会員 計152名

・演題及び講師

「大型斜面模型実験を用いた降雨による不飽和浸透と地下水位挙動が崩壊時の流動性に与える影響」

防災科学技術研究所 上席研究員 酒井 直樹 氏

「斜面安定問題において特殊土は何か?特殊なのか」

東北大学 准教授 加村 晃良 氏

「砂を用いた円柱カラム土槽における降雨浸透挙動の実験的研究」

防災科学技術研究所 主任研究員 石澤 友浩 氏

「浅水長波型土石流解析のためのせん断抵抗モデルの開発」

東北大学 助教 野村 怜佳 氏

「数値解析のためのベンチマーク問題の創出」

東北大学 准教授 森口 周二 氏

■東北支部地すべり現地検討会

* (一社)建設コンサルタンツ協会CPD認定 6.25単位

○「第63回研究発表会及び現地見学会」における現地見学会の運営

・開催日 2024年9月20日

・見学コース及び参加者

Aコース：荒砥沢地すべり・栗駒山麓ジオパーク見学コース
参加者：49名

Bコース：東日本大震災伝承施設見学コース

参加者：30名

Cコース：丸森町豪雨災害・津波災害からの復旧復興コース
参加者：41名

■災害調査及び調査報告会

○山形県2024年7月豪雨災害における現地調査(砂防学会東北支部と共催) 参加2名

・実施日及び調査地：2024年11月8日～9日 山形県酒田市 荒瀬川流域

■研修会

・第1回 2024年7月5日「地すべり地形の判読と評価」

参加31名 講師 山形大学名誉教授 八木 浩司 氏

・第2回 2024年10月8日「空中写真による地すべり危険度評価」 参加14名

講師 (株)東北開発コンサルタント 池田 浩二 氏

・第3回 2024年11月26日「数値地形情報による地すべり評価への展開」 参加15名

講師 奥山ボーリング(株) 林 一成 氏

■広報活動等

支部だより第35号の発行(2024年12月20日)

印刷部数247部、発送部数247部

支部ホームページの更新、情報発信、各種事業案内・参加募集、支部行事等の掲載など

講師派遣

(一社)秋田県地質調査業協会「令和6年度地質調査研修」

(2024年7月9日) 奥山ボーリング(株) 藤井 登 氏

■関連団体との連携・地域貢献

・(公社)土木学会「令和6年度全国大会 第79回年次学術講演会」(2024年9月2日～6日)

・(一社)地盤品質判定士会東北支部「盛土規制法に伴う問題 盛土地の見学および検討会」(2024年10月24日)

・(一社)斜面防災対策技術協会都北支部「山が動く」寄稿

第2号議案 2024年度収支決算報告及び会計監査報告

(収益)

(単位：円)

勘 定 科 目			2024度予算 b	2024決算 a	増 減 a－b	備 考
大科目	中科目	小科目				
支部収益			1,232,500	1,255,200	22,700	
	事業収益		552,500	575,200	22,700	
		シンポジウム収益	357,500	381,200	23,700	講演会3回開催
		現地検討会収益	0	0	0	全国大会のため見送り
		技術講習会収益	195,000	0	△ 195,000	
		その他事業収益	0	194,000	194,000	講習会参加費
		出版収益	0	0	0	
	協賛・寄付		680,000	680,000	0	34社×2万
	雑収益		0	0	0	
	受取利息		0	0	0	
	預り金		0	0	0	
	助成金		0	0	0	
本部仮払金			0	0	0	
若手会員対策費			150,000	51,833	△ 98,167	
当期収益合計			1,382,500	1,307,033	22,700	

(費用)

(単位：円)

勘 定 科 目			2024度予算 b	2024決算 a	増 減 a－b	備 考
大科目	中科目	小科目				
支部費用			1,376,100	1,370,506	△ 5,594	
	事業費		1,019,000	1,072,154	53,154	
		シンポジウム会費	476,000	589,821	113,821	講演会
		現地検討会費用	0	0	0	全国大会のため見送り
		技術講習会費用	71,000	0	△ 71,000	
		※その他事業活動	472,000	482,333	10,333	上記の3つ以外の活動費
	管理費		357,100	298,352	△ 58,748	
当期費用合計 (B)			1,376,100	1,370,506	△ 5,594	

当期収支差額 (C=A-B)	6,400	△ 63,473	△ 69,873	
当期末収入金(E)	0	0	0	
前期末払金	0	0	0	
前期前払金	0	0	0	
前期前払金(F)	0	0	0	
前期繰越額 (D)	1,394,193	1,394,193	0	
次期繰越額(D+C-E+F)	1,400,593	1,330,720	△ 69,873	

※各小科目の詳細については支部ホームページ「支部情報：議案書」に掲載しておりますが、一部、本部監査後に収支項目の入れ替えがあります。

会計監査報告

2024年度(公社)日本地すべり会東北支部会計監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

2025年4月1日

会計監事 渋谷 保
会計監事 橋本 修一

第3号議案 2025年度事業計画

■支部総会・意見交換会：2025年5月23日

(TKP仙台青葉通カンファレンスセンター)

- ・支部総会は対面参加を基本としてオンライン参加を併用したハイブリッド開催とした。

■役員会、運営委員会、幹事会、委員会

- ・支部事業の企画立案、運営に関し随時開催し、実施状況のフォローアップを行う。

■講演会・研究発表会：事業企画委員会

①講演会及び研究発表会

地すべり調査、研究に関連する話題提供と講演、及び支部ワーキング成果の発表を行う。

- ・第1回講演会（支部総会後に開催）

「地盤材料の変形と破壊に関する話題」

東北大学工学部大学院教授 山川優樹 氏

「AI時代に改めて考えたい地質・土木分野における情報技術のまとい方」

諏訪東京理科大学工学部准教授 菊地 輝行 氏

- ・第2回は7月下旬に、第3回を11月以降に開催予定

②斜面変動研究のワーキング

- ・支部若手～中堅会員を対象とした研究、情報交換の場としての実施し、成果を支部内(研究発表会、HP等)で発信、共有予定
- ・研究グループごとにテーマに沿って年間に複数回実施予定

■研修会：研修委員会

- ・若手会員対策事業費を活用し、若手会員および協賛会員向けの実践的な研修を実施
- ・「斜面防災危険度評価ハンドブック」をテキストにした地形判読演習を含む研修のほか、地すべり地での現地研修会の開催も検討
- ・2025年6月上旬、8月上旬及び10月に開催予定

■災害調査派遣及び現地検討会：巡検計画委員会

①東北地方における広域的または重大な災害に対する緊急調査

- ・調査に値する災害情報が提供された場合は、本部「土砂災害緊急調査内規」と連携を取り調査派遣を検討、実施する。
- ・支部アドバイザーとの連携及び情報収集、他学会・協会等と連携を図り調査を実施する。

②地すべり現地検討会(予定)

- ・日 時：2025年9月～10月(1泊2日)
- ・場 所：福島県河沼郡柳津町「高森地すべり」
- ・募集範囲：学会支部会員及び協賛企業・団体の職員、40～50名程度

■支部だより：広報委員会

- ①支部だより第36号の発刊(2025年12月)
- ②ホームページ更新、SNSを利用した情報発信や交流の推進
- ③会勢拡大活動(アウトリーチ連絡会・会員数対策連絡会と連携)
 - ・学校や自治体の防災教育、技術研修会へ講師派遣



▲ 2025年度支部総会の様子



▲ 2025年度支部総会の支部長挨拶

第4号議案 2025年度収支予算案

(収益)

(単位：円)

勘 定 科 目			2024予算 b	2025予算 a	増 減 a－b	備 考
大科目	中科目	小科目				
支部収益			1,232,500	2,105,000	872,500	
	事業収益		552,500	1,425,000	872,500	
		シンポジウム収益	357,500	505,000	147,500	講演会
		現地検討会収益	0	700,000	700,000	福島県内
		技術講習会収益	195,000	220,000	25,000	
		その他事業収益	0	0	0	
		出版収益	0	0	0	
	協賛・寄付		680,000	680,000	0	34社×2万
	雑収益		0	0	0	
	受取利息		0	0	0	
	預り金		0	0	0	
	助成金		0	0	0	
本部仮払金			0	0	0	
若手会員対策費			150,000	150,000	0	
当期収益合計			1,232,500	2,255,000	872,500	

(費用)

(単位：円)

勘 定 科 目			2024予算 b	2025予算 a	増 減 a－b	備 考
大科目	中科目	小科目				
支部費用			1,376,100	2,302,100	926,000	
	事業費		1,019,000	1,685,000	666,000	
		シンポジウム会費	476,000	515,000	39,000	講演会
		現地検討会費用	0	752,000	752,000	福島県内
		技術講習会費用	71,000	81,000	10,000	
		※その他事業活動	472,000	337,000	△ 135,000	上記の3つ以外の活動費
	管理費		357,100	617,100	260,000	
当期費用合計 (B)			1,376,100	2,302,100	926,000	
当期収支差額 (C=A－B)			6,400	△ 47,100	△ 53,500	
前期末収入金			0	0	0	
前期末払金			0	0	0	
当期前払金			0	0	0	
前期前払金			0	0	0	
前期繰越額 (D)			1,394,193	1,330,720	△ 63,473	
次期繰越額 (D＋C)			1,400,593	1,283,620	△ 116,973	

学会活動報告

2025年度 講演会・研究発表会

事業企画委員 今井 雄輝

本年度は3回の講演会・研究発表会を企画し、11月時点で2回までの開催は無事終了しました。昨年度と同様に、会場対面参加と同時にライブ配信(オンライン)も併用することで多くの支部会員、協賛企業・団体職員の皆様、関係学会の皆様等、多くの方々に参加して頂きました。

【第1回開催概要】

日 時：2025年5月23日(金) 15:00～17:00

形 式：会場参加(TKP仙台青葉通カンファレンスセンター7F)、オンライン参加(Microsoft Teams 利用)

参加人数：95名

CPD：建設コンサルタンツ協会CPD認定(2.0単位)

講 演

- ①「地盤材料の変形と破壊に関する話題」
山川 優樹 氏(東北大学大学院工学研究科教授)
- ②「AI時代に改めて考えたい地質・土木分野における情報技術のまとい方」
菊地 輝行 氏(諏訪東京理科大学工学部准教授)

第1回講演会・研究発表会開催後は、懇親会を同会場(TKP仙台青葉通カンファレンスセンター)で実施し、参加者による意見交換が盛んにおこなわれ、盛り上がりを見せました。



▲ 発表会会場



▲ 意見交換会

【第2回開催概要】

日 時：2025年11月11日(火) 13:30～16:30

形 式：会場参加(復建技術コンサルタント4F会議室)、オンライン参加(Microsoft Teams 利用)

参加人数：119名

CPD：建設コンサルタンツ協会CPD認定(2.75単位)

講 演

- ①「広域における3次元斜面安定解析について」
外里 健太 氏(八戸工業大学工学部工学科講師)
- ②「二次元安定解析の諸問題 — c、φの決定・Fellenius法と非円弧すべりほか—」
山崎 孝成 氏
- ③「すべり面強度の温度依存性が地すべりの安定性に及ぼす影響に関する議論」
柴崎 達也 氏(国土防災技術(株))

第2回講演会・研究発表会では、「地すべりの安定性・安定解析」をテーマにし、3名の方に講演を行っていただきました。最後の総合討論の時間は、十分な討議時間を確保することができず、次回の反省点になります。しかしながら、オンライン参加を含めて100名を超える方々に参加いただくことができ、講演内容に関する関心の高さ、オンライン方式併用の定着度合がうかがえます。講演者の皆様、参加者の皆様には御礼申し上げます。



▲ 森口支部長の挨拶



▲ 外里氏の講演

最後に、令和8年3月に第3回目の講演会・研究発表会(内容は、東北大学災害科学国際研究所、防災科学技術研究所の共同研究内容)を予定しています。多くの皆様の参加をお待ちしております。

学会活動報告

2025年度 現地研修会「権現崎地すべり」

研修委員長 工藤 唯志

【事業概要】

東北支部では令和5年度より研修委員会を立ち上げ、地すべり学会員に限らず、次世代の若手技術者を対象とした若手講習会を開催しています。

今年度は35周年記念事業として出版した、「斜面防災危険度評価ガイドブックー斜面と地すべりの読み解き方ー」を活用し、地すべり地形の判読・AHP評価・数値地形情報による地すべり評価への展開について、オンライン講習会と現地研修会(グループワーク含む)を実施しました。

現地研修会には、青森県職員の若手技術者の参加もあったことや、意見交換会では、若手技術者主体の意見交換により親睦も深まりました。

【オンライン講習会】

日 時：2025年10月22日 13:00～17:00

場 所：東北支部事務局会議室および
オンライン(ハイブリッド形式)

講 師

山形大学名誉教授 八木 浩司 氏
奥山ボーリング(株) 林 一成 氏
(株)東北開発コンサルタント 池田浩二 氏
参加者：17名(東北支部幹事含む)



▲ オンライン講習会の様子

【現地研修会】

日 時：2025年10月29日～30日

討論場所：中泊町 ふれあいセンター

青森県北津軽郡中泊町宮野沢

現地踏査：権現崎地すべり

中泊町小泊尾崎道

講 師

山形大学名誉教授 八木 浩司 氏
奥山ボーリング(株) 林 一成 氏
(株)東北開発コンサルタント 池田 浩二 氏
参加者：27名(東北支部幹事含む)

現地踏査

地すべり地内を踏査し、地すべり地形や地すべり変状等を観察。

※青森県職員の若手技術者も参加

グループワーク(討議)

地形判読結果や現地踏査結果を元に、AHPによる危険度評価を実施。グループで合意形成のうえ、グループ発表。その他、地すべり構造等についても討議を実施。



▲ 現地踏査(上)およびグループワーク(下)の様子

学会活動報告

2025年度 現地検討会「福島県高森地すべり」

巡検計画委員長 吉田 聡司

1. はじめに

本年度は、福島県・高森地すべりを対象とした現地検討会を実施しました。

高森地すべりは、2015年(平成27年)4月上旬に大きく活動したもので、現在も調査および各種対策工事が進行中の現場です。移動層の厚さが10m前後と比較的薄く、軟質で礫も少ないという特徴があり、地すべり対策としては導入事例の少ない地盤改良工が採用されています。

現地検討会は「地盤改良工を取り入れた地すべり対策の効果と課題を考える」をテーマに2日間の日程とし、1日目は現地視察、2日目は室内討議を行いました。

- ・開催日：2025年9月30日(火)～10月1日(水)
- ・開催地：
 - 1日目 高森地すべり(福島県柳津町)
 - 2日目 新鶴温泉んだ(福島県会津美里町)
- ・参加人数：27名

2. 現地視察および室内討議

1日目の現地視察では、調査・設計を担当している国土防災技術(株)による説明を受けながら、特徴的な地形や既設の対策工、現在施工中の山腹工やボーリング暗渠工の状況などを視察しました。

2日目の室内討議では、参加者を5班に分けてグループワークを行い、各班がとりまとめた内容を発表しました。建設コンサルタント、専門工事会社、メーカーなど、参加者の専門分野が多岐にわたっていたこともあり、テーマ以外にも思いがけない角度からの意見や質問が飛び交い、大変活発な議論となりました。

3. おわりに

巡検計画委員会では、来年度以降も夜の技術懇談会を含む現地検討会を企画していく予定です。

最後に、現地検討会を開催するにあたりご協力いただいた関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。



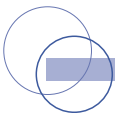
▲ 現地視察状況(集水井工)



▲ 現地視察状況(地盤改良工)



▲ 室内討議の状況



2025年度 東北支部役員・運営委員・アドバイザー(敬称略)

2025年 5月23日現在

支 部 長	森口 周二 (東北大学災害科学国際研究所准教授)	顧問	千葉 則行 (東北工業大学名誉教授)
副支部長	高見 智之 (国際航業(株) 東北支社技術部長)		檜垣 大助 (弘前大学名誉教授)
監 事	渋谷 保 ((株) 大江設計技師長)		宮城 豊彦 (東北学院大学名誉教授)
	橋本 修一 ((株) 東北開発コンサルタント調査役)		八木 浩司 (山形大学名誉教授)
運営委員	梅村 順 梅村 順 (日本大学工学部土木工学科専任講師)		井良沢道也 (岩手大学名誉教授)
	大月 義徳 (東北大学大学院理学研究科准教授)		大河原正文 (岩手大学理工学部教授)
	鄒青 穎 (弘前大学農学生命科学部地域環境工学科准教授)		
	山川 優樹 (東北大学大学院工学研究科教授)	アドバイザー	国土交通省東北地方整備局河川計画課課長
	荻野 俊寛 (秋田大学大学院理工学研究科准教授)		国土交通省東北地方整備局新庄河川事務所所長
	本山 功 (山形大学理学部地球科学分野教授)		農林水産省東北農政局農村振興部農村環境課地質官
	三辻 和弥 (山形大学工学部建築・デザイン学科教授)		林野庁東北森林管理局計画保全部治山課課長
	張 海仲 (山形大学農学部エコサイエンスコース准教授)		東日本高速道路(株) 東北支社技術企画課課長
	加村 晃良 (東北大学大学院工学研究科准教授)		東日本旅客鉄道(株) 仙台支社工事課課長
	近藤 敏光 (国際航業(株) 東北統括部国土保全G担当部長)		東北電力(株) 再生エネルギーカンパニー水力部水力土木課長
	荻田 茂 (奥山ボーリング(株) 技術部専任部長)		奥山 信吾 ((一社) 斜面防災対策技術協会東北支部長)
	伊藤 靖雄 (大日本ダイヤコンサルタント(株) 東北支社技術2部部長補佐)		阿部 真郎 (奥山ボーリング(株) 顧問)
	三嶋 昭二 (東北ボーリング(株) 技術本部技術顧問)		三上登志男 ((株) 復建技術コンサルタント技師長)
	押見 和義 ((株) 復建技術コンサルタント技師長)		濱崎 英作 ((株) アドバンテクノロジー社長)
	渡辺 修 ((同) 水文企画代表)		山科 真一 (国土防災技術(株) 常任顧問)
	工藤 唯志 (日本工営(株) 仙台支店国土保全部長)		八鍬 健 ((株) 日さく仙台支店長)
	大村 泰 (奥山ボーリング(株) 技術部首席次長)		
	吉田 総司 (国土防災技術(株) 福島支店長)		

幹事会

区 分	委 員 会	氏 名	所 属	名 称	実行内容
幹 事 長		瀬野 孝浩	(株)新東京ジオ・システム	事業企画	支部総会・シンポジウム、他学会・協会との交流活動についての企画・運営、斜面変動コロキウムの実行
副幹事長	事業企画	渡辺 修	(同)水文企画		
	巡検計画	吉田 聡司	国土防災技術(株)		
	広 報	大村 泰	奥山ボーリング(株)		
	研 修	工藤 唯志	日本工営(株)		
幹 事	事業企画	穴戸 拓磨	川崎地質(株)	巡検計画	地すべり現地検討会の企画・開催、災害時の調査団派遣検討及び調査報告書の作成
		今井 雄輝	応用地質(株)		
		高橋 康平	国土防災技術(株)		
		根岸 拓真	基礎地盤コンサルタント(株)		
	巡検計画	石川 恵司	(株)日さく	広 報	支部活動に関わる情報提供や広報活動、支部HP運営・管理、支部だよりの作成・配布、社会貢献・会勢拡大活動(アウトリーチ・会員数対策連絡会と連携)
		細谷 健介	新和設計(株)		
		山本 佑介	(株)復建技術コンサルタント		
		小林 卓矢	大日本ダイヤコンサルタント(株)		
	広 報	石川 晴和	(株)アドバンテクノロジー	研 修	会員または一般向け技術研修会の企画・運営
		黒墨 秀行	(株)総合土木コンサルタント		
		池田 浩二	(株)東北開発コンサルタント		
	研 修	中臺 直之	(株)新東京ジオ・システム		
		市川 岳志	日本工営(株)		
		鈴木 真悟	奥山ボーリング(株)		
	会計・事務局	大澤 宏明	(株)復建技術コンサルタント		

歴代役員(支部長・副支部長・幹事長)および事務局

(公社)日本地すべり学会東北支部は、設立40周年を迎えました。設立当初から今日に至るまで、支部活動を主導して下さった役員および事務局の方々をまとめました。これまでのご尽力に感謝を申し上げます。

東北支部設立年月日：(1985/5/11)昭和 60 年 5 月 11 日

年 度		支部長	副支部長	幹事長	事務局
昭和60年度 (1985年度)	～ 平成5年度 (1993年度)	北村 信(東北大)	盛合禰夫(東北工大) 宮城県砂防課長	秋田県砂防課長	千葉則行(東北工大)
平成6年度 (1994年度)	～ 平成11年度 (1999年度)	盛合禰夫(東北工大)	宮城豊彦(東北学院大) 宮城県砂防課長	秋田県砂防課長	千葉則行(東北工大)
平成12年度 (2000年度)	～ 平成13年度 (2001年度)	盛合禰夫(東北工大)	宮城豊彦(東北学院大) 星野和彦(宮城県)	堀江敏明(秋田県)	千葉則行(東北工大)
平成14年度 (2002年度)	～ 平成17年度 (2005年度)	宮城豊彦(東北学院大)	橋本 潔(宮城県) 阿部真郎(奥山ボーリング)	千葉則行(東北工大)	千葉則行(東北工大)
平成18年度 (2006年度)	～ 平成19年度 (2007年度)	檜垣大助(弘前大)	松本 明(宮城県) 三上登志男(復建技術コンサルタント)	千葉則行(東北工大)	千葉則行(東北工大)
平成20年度 (2008年度)		檜垣大助(弘前大)	中川 淳(宮城県) 三上登志男(復建技術コンサルタント)	千葉則行(東北工大)	加藤 彰(テクノ長谷)
平成21年度 (2009年度)	～ 平成22年度 (2010年度)	檜垣大助(弘前大)	平間光雄(宮城県) 三上登志男(復建技術コンサルタント)	千葉則行(東北工大)	加藤 彰(テクノ長谷)
平成23年度 (2011年度)		檜垣大助(弘前大)	伊藤一彦(宮城県) 三上登志男(復建技術コンサルタント)	千葉則行(東北工大)	加藤 彰(テクノ長谷)
平成24年度 (2012年度)	～ 平成25年度 (2013年度)	千葉則行(東北工大)	橋本喜次(宮城県) 濱崎英作(アドバンテクノロジー)	山科真一(国土防災技術)	加藤 彰(テクノ長谷)
平成26年度 (2014年度)	～ 平成27年度 (2015年度)	奥山武彦(山形大学)	橋本喜次(宮城県) 森屋 洋(奥山ボーリング)	山科真一(国土防災技術)	加藤 彰(テクノ長谷)
平成28年度 (2016年度)	～ 平成29年度 (2017年度)	八木浩司(山形大学)	菅野洋一(宮城県) 金子和亮(日本工営)	瀬野孝浩(新東京ジオ・システム)	島本昌憲(テクノ長谷)
平成30年度 (2018年度)		大河原正文(岩手大学)	金子和亮(日本工営)	瀬野孝浩(新東京ジオ・システム)	島本昌憲(テクノ長谷)
令和元年度 (2019年度)		大河原正文(岩手大学)	金子和亮(日本工営)	瀬野孝浩(新東京ジオ・システム)	大澤宏明(復建技術コンサルタント)
令和2年度 (2020年度)	～ 令和4年度 (2022年度)	大河原正文(岩手大学)	高見智之(国際航業)	瀬野孝浩(新東京ジオ・システム)	大澤宏明(復建技術コンサルタント)
令和5年度 (2023年度)	～ 令和7年度 (2025年度)	森口周二(東北大学)	高見智之(国際航業)	瀬野孝浩(新東京ジオ・システム)	大澤宏明(復建技術コンサルタント)

支部協賛会社(35社)

支部活動は、協賛いただいている各企業の協賛金と皆様のマンパワーにより支えられております。支部活動の拡大・活性化のために、今後とも一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(一社)斜面防災対策技術協会 東北支部
(株)アサノ大成基礎エンジニアリング 東北支社
(株)アドバンテクノロジー
応用地質(株) 東北事務所
(株)大江設計
奥山ボーリング(株)
川崎地質(株) 北日本支社
基礎地盤コンサルタンツ(株) 東北支社
(株)計測技研
国際航業(株) 東北支社
国土防災技術(株) 東北支社
(株)新東京ジオ・システム
新和設計(株)
(同)水文企画
(株)総合土木コンサルタンツ
(株)測商技研 秋田支店
(株)大日本ダイヤコンサルタント 東北支社
(株)地質基礎

中央開発(株)東北支店
(株)テクノ長谷
東光計測(株)
東邦技術(株)
(株)東北開発コンサルタント
東北ボーリング(株)
土地地質(株)
日栄地質測量設計(株)
(株)日さく 仙台支店
日鉄鉱コンサルタント(株) 東北支店
日特建設(株) 東北支店
日本基礎技術(株) 東北支店
日本工営(株) 仙台支店
(株)平野組
(株)復建技術コンサルタント
(株)北杜地質センター
ライト工業(株) 東北統括支店

編集後記

令和7年12月8日23時15分頃、青森県東方沖においてマグニチュード7.5の地震が発生しました(2025年12月10日現在、気象庁推定)。東日本大震災(2011年3月11日、M9.0)から時間は経過しておりますが、2020年以降に東北地方でM7.0を超える地震は福島県沖地震(2021年)に続く二例目となり、改めて地震活動の活発さを認識させられる出来事となりました。非常時への備えは私たちに課せられた責務であり、この機会にご家族や身近な方々と防災について話し合う時間を持ていただければ幸いです。

本年2025年は、東北支部設立40周年という節目の年にあたります。本号では、浅野会長の寄稿を

はじめ、これまで支部活動に尽力いただいた役員の皆さまのご紹介、奈良大会における学会活動貢献受賞の記事、さらに講演会・研究発表会・現地研修会など年間活動の記録を掲載しております。特に年間活動の記録は、幹事会各委員会が日常業務の合間を縫って企画・運営したものであり、こうして誌面を通じて皆さまにご覧いただけることは、関係者一同にとって大きな励みとなります。ぜひご一読いただければと存じます。

東北支部では、来年以降も地域に根ざした活動をさらに充実させ、皆さまのご期待に応えられるよう努めてまいります。今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

広報委員会

委員長 大村 泰(奥山ボーリング)
委員 黒墨秀行(総合土木コンサルタンツ)
池田浩二(東北開発コンサルタント)
石川晴和(アドバンテクノロジー)
事務局 大澤宏明(復建技術コンサルタント)